

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業  
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	56
学校名	富山県立ふるさと支援学校

学校の現状と課題	<p>本校は、隣接する独立行政法人国立病院機構富山病院に入院する病弱者である児童生徒を対象とした特別支援学校である。小学部、中学部、高等部の各学部に日常的には医療的ケアが必要な重度・重複障害の児童生徒も在籍し、富山病院内で訪問教育を受けながら自立活動を主とした教育課程で学習を行っている。昨年度、GIGAスクール構想により1人1台端末が整備される中、本校ではPCに入出力するための支援装置として視線入力装置を2台整備してもらった。</p> <p>今年度から視線入力装置の幅広い専門的な研修を行ったり、学習環境を整えたりすることで、児童生徒が主体的にPCを使って学べる機会を増やしたいと考えている。</p>	
テーマ(特色)	ICT機器(視線入力装置)を活用した支援の充実	
設定した「テーマ」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人地域ケアサポート研究所 下川 和洋 氏(東京都)を講師に迎え、WEB(Zoom)にて研修を行った。視線入力装置の基本的な内容の説明、実践、無料アプリの紹介、活用、教材作成、質疑応答を行った。訪問教育担当の教員が中心に受講したが、自分が担当している児童生徒の実態を考えながら、授業で使えるようなアプリの実習を選択して行い、意欲的に講師に質問していた。研修終了後も教員間で視線入力装置について話し合う機会が増え、教員のICT機器活用の専門性が高まったと思われる。</li> <li>・病棟にいる児童生徒が視線入力装置を活用できるための周辺機器準備に時間を要したが、整備後は訪問教育教員全体で、活用が有効と思われる児童生徒に授業を展開している。対象児童生徒は自立活動を主とした教育課程であるため、現在(2月28日)は視線入力装置と連動した簡単なゲームアプリを利用し、画面に現れてくる対象物をしっかり見ることや、ゆっくり動く対象物を目で追うなどの学習を行っている。児童生徒の興味関心がある内容のゲームであるため、意欲的に目で追いかけたり、活動中表情に笑顔が見られたりする児童生徒もいた。今後二者択一のクイズ形式で正しい答えを視線で選ぶことや、気持ちを表すシンボルの中から今の気持ちを視線で選んで応える等の学習活動を行うことで、児童生徒の実態に応じたコミュニケーションの広がりを期待している。</li> </ul>	
実施内容(具体的に記入する)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①視線入力装置(トビーPCEye Mini)に詳しい講師の選定</li> <li>②コロナ禍のため、WEB(Zoom)で県外の講師との研修会 7月30日(金)9時～12時 場所:訪問教室 講師 NPO法人 地域ケアサポート研究所 下川 和洋 氏(東京都)</li> <li>③視線入力装置を使って主体的に学ぶ環境整備 購入品目 ・カメラ三脚用ノートPCデスク ・パソネットノートパソコン用 ・磁気取付パネル</li> <li>④訪問教育の児童生徒対象に授業実践</li> <li>⑤訪問教育の教職員間で実践事例の共有</li> </ol>	
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	<p>昨年度GIGAスクール構想より1人1台端末が貸与され、入出力装置の整備を行ったが、それを活用する教員の専門性が十分ではなかった。そのため訪問教育児童生徒が視線入力装置を活用するには至っていなかったが、今年度プロジェクト学習推進事業の支援を受けることにより、教員の入出力装置に関する専門性が向上し、訪問教育の児童生徒が視線入力装置を活用することにより主体的に学習に取り組める場面が増えた。本校の教育目標「一人一人に応じた健康の回復を目指し、自己教育力の育成を図るとともに、進んで社会参加できる児童生徒の育成に努める。」で、訪問教育児童生徒の自立に向けた力(自己教育力)の育成に成果をあげることができたと思われる。</p>	
対象者(学年・人数など)	訪問教育教職員8人	
実施実績	4月	講師の選定
	5月	
	6月	
	7月	外部講師(県外)によるWEB研修会
	8月	機器の整備
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
	1月	視線入力装置を活用した教材研究や授業実践
2月		
3月		